

盛況なブラジル鉱区入札 石油会社の関心はプレソルトから南部 Pelotas Basin へ移る

ブラジル国家石油庁(ANP)は 2023 年 12 月 13 日にプレソルトエリアの内外を対象として Open Acreage 方式の鉱区入札を実施した。

プレソルトエリア外の鉱区を対象とした入札は、落札鉱区数、サインボーナス、参加企業数等いずれも過去の Open Acreage 方式の入札の中で最高の結果となった。特に関心を集めたのは南部 Pelotas Basin で、Petrobras や Chevron が 44 の鉱区を落札した。Pelotas Basin ではまだ十分に探鉱が行われていないが、大西洋を隔てたナミビア沖の Orange Basin での探鉱結果が良好であることが、Pelotas Basin での探鉱の見通しを楽観的なものにしたと考えられる。ANP が、企業が入札に参加しやすくなるように探鉱期間中の最低作業義務を変更したことも良好な入札結果を生んだ一因と考えられる。

プレソルトエリア内を対象とする入札は、BP が唯一札を入れ、Tupinambá 鉱区をサインボーナス 141 万ドル、政府引取利益原油の割合 6.5%、最低投資額 6,400 万ドルで落札するという、低調な結果に終わった。

ナミビア沖 Orange Basin で探鉱成果が上がっていることを受けて、ブラジルに限らず、ウルグアイやアルゼンチンでも探鉱が活性化する模様だ。

ブラジル国家石油庁(ANP)は 2023 年 12 月 13 日にプレソルトエリアの内外を対象として Open Acreage 方式の鉱区入札を実施した。

プレソルトエリア外について Open Acreage 方式の鉱区入札が実施されるのは今回が 4 回目で、955 の探鉱鉱区と成熟エリア Japiim を対象に入札が実施された。

このうち、沖合鉱区は 561 鉱区であったが、7 社が 48 の鉱区を落札した。サインボーナスの額は合計で 8,120 万ドルであった。

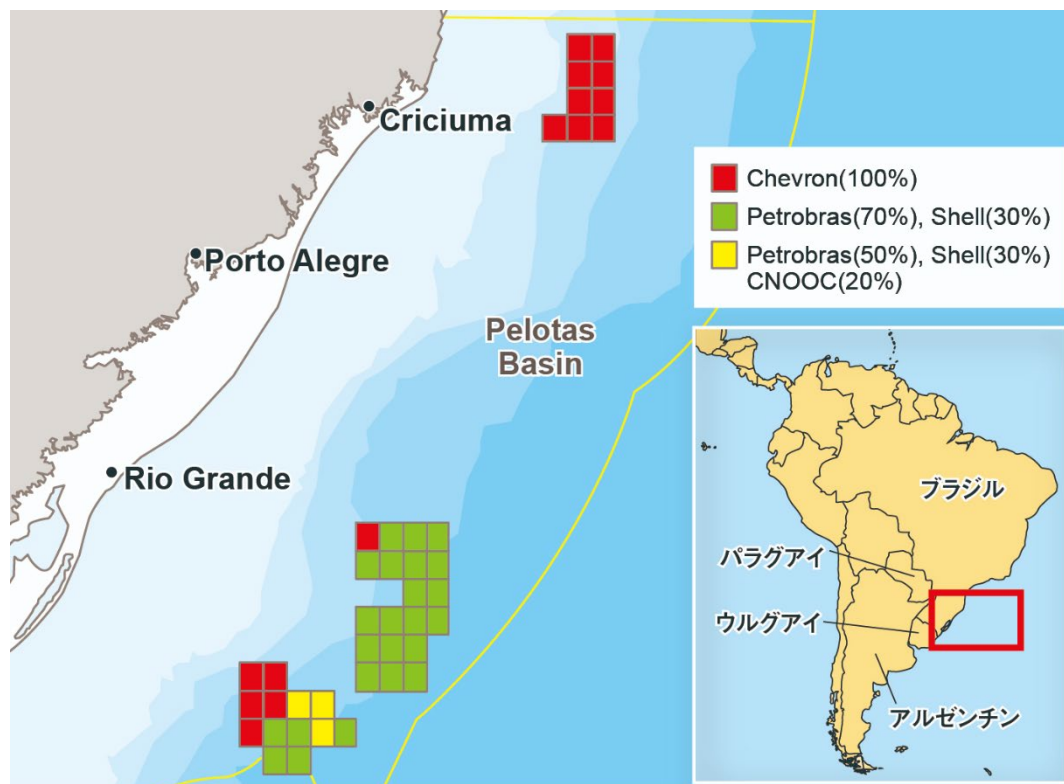
落札された 48 鉱区中 44 鉱区がブラジル南部 Pelotas Basin の鉱区であった。

Santos Basin との境界に近い Pelotas Basin 北部の鉱区には Chevron のみが関心を示し、入札を行った 9 鉱区全てを落札した。

Pelotas Basin 南部では、Chevron と Petrobras がオペレーターを務める 2 つのコンソーシアムが 7 つの鉱区で競った。Petrobras がオペレーターを務めるコンソーシアムは、7 鉱区全てで Chevron に競り勝ち、鉱区を取得した。Chevron は、Pelotas Basin 南部のその他の 6 鉱区を落札し、Pelotas Basin 全体で合計 15 の鉱区を獲得、ブラジルでの探鉱・開発の足場を固めた。Chevron のサインボーナスは

総額で 2,530 万ドルであった。

(図 1) 今回の入札で落札された Pelotas Basin の鉱区



(出所:各種資料を基に JOGMEC 作成)

沖合では他に、Santos Basin で、Karoon が 2 鉱区、Equinor が 1 鉱区、CNOOC が 1 鉱区を落札した。

このうち、Equinor が落札した SS-UAP5 セクターの Block S-M-1378 については、サインボーナスが 1,250 万ドルともっとも高額で、加えて、Equinor は 5 年間の探鉱期間中に最低作業義務として 2,200 万ドル近くを投じるという。

陸上については、9 社が 6 堆積盆地の合計 140 の鉱区を落札した。サインボーナスは合計で 344 万ドルとなった。

今回の入札で最多となる 122 の陸上鉱区を落札した Elysian Petroleum は、2023 年 8 月に設立された Minas Gerais 州の企業で、起業家の Emami Machado 氏が所有している。石油分野での経験がないことが懸念されている。

成熟エリア Japiim は、Amazonas、Maranhao に資産を保有する国内最大級の陸上オペレーターである Eneva に付与されることとなった。

今回のプレソルトエリア外の鉱区を対象とした Open Acreage 方式の入札は、過去の入札に比べ、落札鉱区数、サインボーナスの金額、参加企業数のいずれを取っても多く、過去最高の結果となった(表 1)。

Global Disclaimer(免責事項)

このウェブサイトに掲載されている情報はエネルギー・金属鉱物資源機構(以下「機構」)が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、機構が作成した図表類等を引用・転載する場合は、機構資料である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。機構以外が作成した図表類等を引用・転載する場合は個別にお問い合わせください。※Copyright(C) Japan Organization for Metals and Energy Security All Rights Reserved.

このような好結果を生んだ背景には、Pelotas Basin での探鉱への期待の高まりがあると考えられる。Pelotas Basin ではまだ十分に探鉱が行われていないが、大西洋を隔てたナミビア沖の Orange Basin では、TotalEnergies や Shell が大規模な原油の埋蔵を確認し、開発に向けて取り組んでいる。Orange Basin での油田発見が Pelotas Basin での探鉱の見通しを楽観的なものにしたと考えられる。

また、企業が入札に参加しやすくなるように、ANP が試掘井掘削義務を免除する等、探鉱期間中の最低作業義務を変更したことも、活発な入札が行われた理由と考えられる。

(表 1) Open Acreage 方式入札の結果(プレソルトエリア外)

実施日	落札鉱区数			サイン ボーナス	入札 企業	落札 企業
	陸上探鉱	沖合探鉱	成熟エリア			
2019/9/10	30	3	12	400 万ドル	10	10
2020/12/4	16	1	1	600 万ドル	7	7
2022/4/13	50	8	0	8,200 万ドル	14	13
2023/12/13	140	48	1	8,500 万ドル	17	15

(出所:各種資料を基に JOGMEC 作成)

プレソルトエリア内については 5 鉱区が対象とされた。Petrobras は今回、入札への参加を見送り、事前に入札への参加を認められていた Petronas、Chevron、QatarEnergy、Shell、TotalEnergies はいずれも入札を行わなかった。その結果、BP が唯一の入札企業となり、Tupinambá 鉱区をサインボーナス 141 万ドル、政府引取利益原油の割合 6.5%、最低投資額 6,400 万ドルで落札した。2022 年 12 月 16 日に行われた前回のプレソルトエリア内を対象とした初の Open Acreage 方式の入札では、対象 11 鉱区中 4 鉱区に 6 件の入札があり、合計でサインボーナスは 1 億 7,300 万ドル、最低投資額は 7,800 万ドルであり、プレソルトエリア内を対象とした今回の入札は低調であったことが見て取れる。

プレソルトエリア内を対象とした Open Acreage 方式の入札への関心の低さを懸念して、ANP は次回の入札で対象鉱区に含む予定の 4 鉱区 Calcita、Hematita、Malaquita、Opala について評価を始めた。また、プレソルトエリアを設定し、その内側の鉱区については PS 契約を締結することとなっている現在の法制について再検討を求める声も高まっているという。

なお、プレソルトエリア外の鉱区についてはコンセッション契約、プレソルトエリア内の鉱区については PS 契約が締結される。

ブラジル南部沖合での探鉱・開発への石油会社の関心の高まりは、2022 年 4 月 13 日に行われた前回のプレソルトエリア外を対象とした Open Acreage 方式の入札でも見られた。Shell/Ecopetrol のコンソーシアムと TotalEnergies が Santos Basin 南部の 6 つの鉱区で競合し、Shell/Ecopetrol が 4 鉱区を、TotalEnergies が 2 鉱区を落札、Shell/Ecopetrol はこれらの鉱区とは別に 2 鉱区を競合他社からのオフ

Global Disclaimer(免責事項)

このウェブサイトに掲載されている情報はエネルギー・金属鉱物資源機構(以下「機構」)が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、機構が作成した図表類等を引用・転載する場合は、機構資料である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。機構以外が作成した図表類等を引用・転載する場合は個別にお問い合わせください。※Copyright(C) Japan Organization for Metals and Energy Security All Rights Reserved.

アーナシに落札している。今回の入札では、この傾向がより鮮明に表れたといえよう。2023 年初めに Pelotas basin を対象として隣国ウルグアが実施した入札でも、Shell や YPF が沖合鉱区を落札、さらに、アルゼンチンでも Equinor や YPF が、2024 年初めに北部沖合の Block CAN-100 で試掘井を掘削する準備を進めており、ブラジルにとどまらずこの地域全体として探鉱が活性化する模様だ。

以 上

(この報告は 2023 年 12 月 26 日時点のものです)

ⁱPetrobras (権益保有比率 70%) /Shell (同 30%) のコンソーシアムと Petrobras (同 50%) /Shell (同 30%) /CNOOC (同 20%) のコンソーシアム。

Global Disclaimer(免責事項)

このウェブサイトに掲載されている情報はエネルギー・金属鉱物資源機構(以下「機構」)が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、機構が作成した図表類等を引用・転載する場合は、機構資料である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。機構以外が作成した図表類等を引用・転載する場合は個別にお問い合わせください。※Copyright(C) Japan Organization for Metals and Energy Security All Rights Reserved.